



病理遺伝子検査

検査項目	ご注意点	報告日数
リンパ球クロナリティ検査(犬)	【病理検査と同時依頼または病理診断後のご依頼の場合】 送付いただいたホルマリン固定臓器または作製したパラフィンブロックで検査を実施します。	6日以内
肥満細胞 <i>c-kit</i> 遺伝子変異検査(犬) ※消化管間質腫瘍には対応していません	【病理遺伝子検査を単独でご依頼の場合】 検査材料と輸送方法は以下の通りです。 ・ホルマリン固定臓器：常温 (未固定臓器は不可) ・塗抹標本(染色済み、未染色)：常温 (2枚以上ご送付ください、封入済標本は不可) ・血液塗抹：常温 (2枚以上ご送付ください、封入済標本は不可) ・血液：冷蔵 (EDTAまたはヘパリンで抗凝固処理した全血、0.3~0.5mL) ・パラフィンブロック：常温	6日以内
肥満細胞 <i>c-kit</i> 遺伝子変異検査(猫)		6日以内

1. 依頼先について

病理検査は2ヶ所の依頼先をご用意しています。ご希望のセンターをお選びください。

依頼先	検査項目	所要日数	
マルピー・ライフテック株式会社	細胞診	2~4日	
	組織検査	スタンダードコース	5~7日
		エクストラコース	5~8日
株式会社サンリツセルコバ検査センター	細胞診	3~4日	
	組織検査	4~5日	

- 依頼書は、ご依頼の際にお申しつけください。
- 依頼書には、出来るだけ詳細な臨床経過をご記入ください。

2. 組織の処理送付について

処理

摘出組織の処理

大きな組織(5cm以上)のものは、真ん中に割を入れて下さい。

小さな組織(5cm以下)は、そのままホルマリン浸漬していただいても問題ありません。ただし、1cm以下の小さな組織は割を入れないで下さい。

ホルマリンの濃度

市販のホルマリン原液(約37%ホルムアルデヒド含)を10~20%希釈したものを使用して下さい。

ホルマリン液の量は、組織の体積の5倍~10倍量を目安として下さい。

注)容器に押し込んで臓器を入れると、固定された後で取り出せなくなりますので、余裕のある容器を使用して下さい。

送付

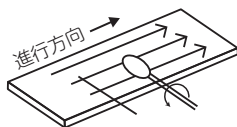
液もれの無いよう専用容器に入れ、送付して下さい。

3. 細胞診の処理送付について

処理

擦過標本

- 軽く叩くか、進行方向に逆回転に転がすように塗抹



→風乾後直ちにメタノールで固定

液状検体（胸水・腹水・尿）



- 上澄を駒込ピペット等で取り除きできるだけ有核細胞層から細胞採取して下さい。

1500~2000rpm 5~10分

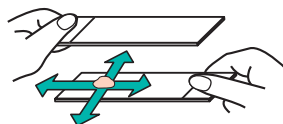


→風乾後直ちにメタノールで固定

- ストリッチ法またはスリ合わせ法

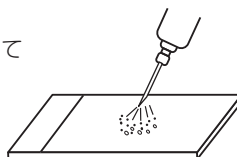
粘液状の検体（喀痰）

- スリ合わせ法 スリ合わせ提出の場合→図の如く作製し風乾後、直ちにメタノールにて固定し提出下さい。



穿刺吸引標本

- 注射針の中の少量検体は、生理食塩水で洗い出して液状検体として塗抹
- 量が多い時は、針先で延ばすか、軽く圧搾する



→風乾後直ちにメタノールで固定

送付

上記の方法で作成したスライドグラスをスライドケースに入れ、3枚程度送付して下さい。

